

第2回今治市地域福祉計画審議会 会議録

日 時	平成 27 年 10 月 29 日(木) 14:00～15:30
場 所	今治市役所 第2別館 11 階 特別会議室3号
次 第	1 開会 2 議事 (1)住民座談会の結果について (2)地域福祉計画骨子(案)について (3)意見交換 (4)今後の予定について 3 閉会
資 料	・次第 ・座席表 ・住民座談会結果のまとめ ・第2期今治市地域福祉計画骨子(案)
出席者	(委員) 恒吉和徳 委員 片上修二郎委員 上村友希 委員 加藤孝子 委員 柳原能夫 委員 賀来英芳 委員 加藤朋子 委員 菅千代美 委員 結田静夫 委員 大澤 博 委員 近藤健太郎委員 橋本勝哉 委員 (今治市) 福祉政策課 阿部課長、二宮係長 (株)ジャパンインタナショナル総合研究所) 谷内田研究員

事務局	【第2回地域福祉計画審議会の開会】
会 長	【会長挨拶】 前回に引き続き、第2回目の審議会にお集まり頂きありがとうございます。今回の計画骨子案は、計画策定委員会・作業部会を経ておおまかな案が出てきています。地域福祉計画は、住民主体となることが理想的な形です。私たちが安心して住みやすいまちと言うのは、基からあるものでなくつくっていくものです。本計画が住みやすいまちにつながるよう本日も皆様から忌憚のない意見をお願いします。
事務局	委員出席確認(12名出席、4名欠席) 配布資料の確認を行う。
会 長	【議事】 議事「(1)住民座談会の結果について」事務局より説明を求める。
事務局	議事「(1)住民座談会の結果について」説明する。
会 長	議事「(1)住民座談会の結果について」質問等を求める。
A 委員	座談会の参加の呼びかけ方法はどうしているのですか。
事務局	参加者の選定方法は、旧市内に関しては公民館にリストアップを依頼し、地域活動に参加されている方に出席を依頼しました。
B 委員	今治・日高・富田地区は商業、交通に関して比較的恵まれている地域だと思いますが、桜井など市内でも少し離れると状況は変わってきます。座談会は全地域で実施するのですか。
事務局	理想は全地域で実施することですが、時間や人員の都合で、ある程度地区を絞って実施した次第です。
B 委員	全地域で実施すれば、また違った傾向(結果)が見えてくるのかな、と思いました。
事務局	第一期計画の策定時にも同地区で座談会を実施したので、その比較という目的もあります。また、社会福祉協議会でも地域福祉活動計画を策定する際に、もっと詳細な座談会も実施しているので、その結果も参考

	にしながら進めていきます。今後も社会福祉協議会と協力して、座談会を実施すれば、地域の盛り上がりにもつながるかと認識しています。
副会長	実施地域をもう少しまんべんなく選んだら、一般的な意見が拾えたのではと思います。
会 長	先行して実施した地域福祉活動計画での座談会では、ほぼ全域で複数回に渡って実施しています。今回の座談会は、計画策定のためだけではなく、今後地域の方が定期的に集まり、地域課題について共有していく「地域ケア会議」に発展していければと思います。また、行政側も全域で地域に出向き、住民から声を聞く機会の継続実施を検討してもらえればと思います。
C 委員	座談会の結果をみると、今の社会情勢をまさに反映しており、高齢化や少子化はますます進行すると思われます。座談会の結果を、今後の地域のネットワークづくりにどう活かすかが課題だと感じています。例えば、島しょ部など的高齢化が進行している地域で、共に助け合い暮らしていくためには、高齢者を対象に物事を考えないといけません。昔は、生活の中で自然と地域の繋がりが生まれていましたが、今の時代は子ども同士でもコミュニケーションの取りにくい社会になっています。座談会が地域のネットワークづくりに移行できるような働きかけをお願いします。
会 長	座談会の意見を有効に活かせるよう、地域福祉計画をより実行性のあるものにしていきたいと思います。 議事「(2)第2期今治市地域福祉計画骨子(案)」について説明を求める。
ジャパン総研	議事「(2)第2期今治市地域福祉計画骨子(案)」について説明する。
会 長	議事「(2)第2期今治市地域福祉計画骨子(案)」質問等を求める。 今回、基本理念は前回から引き継ぎ、基本目標を新たに4つ設けた計画の体系について、何か意見はありますか。 (計画体系について特に異議なし) 議事「(3)意見交換」 計画を実行するための具体的な施策について、参加いただいた委員のそれぞれの視点からご意見を頂きたいと思います。

A 委員	アンケート結果のまとめとして、「現状の近所付き合いは、あいさつをする程度」となっていますが、特に災害時の対応を考えると、お年寄りの寝ている部屋まで把握していないと助けることができません。近所の助け合いには、日頃からの関係作りが重要で、例えば、独居り老人の見守りや寝ている部屋を把握するためにできることはないのかと思うのですが。
会 長	ひとり暮らしの高齢者の把握については、ある程度できていると思いますが、特に災害時の救助では、具体的にどこの部屋で生活されているのかまで正確の把握していないと踏み込めない所があります。個人情報の問題もあり、難しい部分もありますが、何か日頃の見守り等でできることはありますか。
B 委員	民生委員では、日中訪問してもお会いできないケースが続くと、夜まわってみて電気が点いていたり、洗濯物などを確認して、安否を把握したりすることがあります。他の自治体では、寝ている場所の把握までされている地域もあります。
C 委員	南予地域では、災害への備えが進んでいますね。しかし、今治市は、災害が少ないこともあり、住民の危機意識が薄いのが現状です。しかし、災害への備えのためのシステム作りが必要だとは感じています。住民の意識を高めるためには、住民の理解を得るための地域のコミュニケーションの場が必要です。民生委員さんをはじめ、色々な分野の団体がそれぞれ頑張っている活動していますが、団体同士の繋がりが切れているのが課題です。地域の情報をひとつにまとめるようなネットワークづくりが必要だと思います。何か思い切った施策をしないと、今後迎える超高齢化社会に適応できないのではないかと思います。
B 委員	先程の事例は久万高原町の取り組みでした。町域が広域なこともあり、災害時の対応として地域内でたくさん話し合いが行われたそうです。住民の寝ている場所の情報などは、限られた方に情報提供されているようです。
会 長	久万高原町では、情報提供に抵抗のある住民の意見もあったはずですが、そのケースはどうされたのでしょうか。
ジャパン総研	久万高原町では、健康づくりの分野からつなげていったと聞いています。

会 長	他地域の参考になるノウハウを活かすのは良いことだと思います。目的を絞りすぎると、動きが取りにくくなってしまいますし、取り組みやすい分野と絡めて進めていくのも良いのかもしれません。
C 委員	現在、サロン活動を活用し、集いの場を設けていますが、それは「サロン活動」という枠内に限定されており、参加者も限定されています。例えば自治会主催で行えば、地域の方を対象にして集いの場づくりができるのではないのでしょうか。また、その活動を支えるひとづくりや活動の周知方法が今後の課題だと言えます。
副会長	社会福祉協議会では、各地区で防災のマップづくりを実施しています、リーダーがしっかりしている地区は良いものができます。 やはり、活発な地域活動には、リーダーの熱意が必要です。
会長	リーダーの育成も地域福祉推進のキーワードです。
D 委員	地域包括も増えてきていますが、高齢者数に対する職員の数など難しい問題もあります。今治市には介護認定を受けている高齢者が 11,000 人程、重度の方が4分の1、軽度の方が4分の1となっています。軽度の方は、今後介護保険から外れて市の事業に移行していくことになり、自助・共助の役割はますます重要になっていきます。地域ケア会議では、地域に関わる様々な方から地域の課題や役割について話してきました。高齢者の関わる問題は、介護だけでは解決できないこともあり、地域で支えていくことや自助の促しが必要です。 先日の講演会の際、インフォーマルな支援のあり方について話し合い、自助や共助でカバーできることも多くあることに気付きました。地域包括では、今度、独居老人の集いを開催し、生活の困りごとや地域(近所)の方との関わりなどについてアンケートを取る予定です。包括の区域の中でも、高齢化率を始め、地域との関わりや地域の強みが違ってきます。それらを踏まえて、今後10年先を見据えた地域包括ケアシステムに向けて、取り組んでいます。
E 委員	施設関係では、人材確保が課題です。今後は人材不足の解消のために、小中学生に向けて介護や福祉の魅力を教え、福祉体験などを通じて現場での感動を伝えたいと思っています。
F 委員	県内の介護福祉養成校は減ってきており、本校(今治明德短期大学)

	の定員も半数程に減っています。介護の人材不足は、全国的な傾向であり、施設は増えるが人は足りない状況です。人材不足の解消には、小中学生の頃からの種まきが大切だと感じています。 高校生の進路に際して、介護・福祉分野への就職希望は学校からストップがかかります。仕事のきつさや給料面など介護の仕事のマイナス面ばかりに目を向けられていて、人材不足の解消は、なかなか進みません。
会 長	人材不足は、学校だけでは解決できない問題です。どこのまちの地域福祉計画にも、福祉を担う人材の育成は書かれていますが、実際に取り組まれていることの多くは現任の職員への研修などです。新しい人材を確保する仕掛けは、教育委員会や社会福祉協議会との連携も必要です。 人材不足は深刻で、都会では入所希望者は増えているにも関わらず、施設の人員配置基準を満たせない故に施設が潰れるケースもあります。団塊の世代が75歳以上になる2025年に、果たして地域で生活できるかという危惧があります。地域を支える専門の人材をいかに確保するかは、地域福祉計画の重要な課題となります。 高齢者だけでなく子育て支援に関しても、今後地域の人口が減っていく中で、どうやって支援していくのか課題です。
G 委員	近見地区で子育て支援連絡会を立ち上げ、公民館行事と連動しながらイベント等を行いました。その際には、多くの人が集まり、高齢者を含め3世代交流などの場にもなりました。
H 委員	保育でも人材不足の問題は同じです。高校を卒業する際には、保育の仕事を希望して資格を取る学生も多いのですが、その後、一般企業に就職したり、仕事の責任の重さから保育園を辞める方も多いです。 また、収入の低さから男性の保育士離れや、また、都会の保育園の給料がいいことをよく知っていて、進学段階から都会を選んでしまうので、保育士不足という状況になっています。 防災に関して、若い人は日中仕事に出ているので、昼間の高齢化率は、高くなります。保育園では、防災訓練の際、地域の方に参加を呼び掛けていますが、若い方の参加はほとんどありません。いざ、災害の時に地域の方の力を借りずに、私達だけで果たして避難できるのか、と思いました。日中、事業所に勤めている方も地域の一員である、という意識を持ってもらわないといけません。そのためには、事業所に対する働きかけも必要です。

	計画書内の圏域について、共助の取り組みをより深めることが大切で、保育所は地域の違いを感じやすい場所だと思います。例えば、土曜日の午後の保育に関しても、利用率の差が大きく、近くに助けてくれる人がいない、仕事に追われているなど、地域のニーズ(困りごと)を反映しています。住民座談会が実施された地区は、比較的保育の利用率が低く、地域の困り感が少ないような印象です。今後も計画策定のためだけの座談会ではなく、計画を推進していくための座談会となるよう継続して行って欲しいです。 子育て支援センターに来られるお母さんの中に、自治会に入っていないために広報が届かない、という方が多いです。地域の一員であるという認識は、子どものうちから持たせることで、将来の共助につながると思います。そのためにも、自治会の加入率を上げて、市民の一員としての意識を高める方法はないのかな、と思います。
会 長	情報に関しては、自治会に加入している、していないに関係なく、きちんと伝わる仕組みが必要です。防災面での地域との連携に関しても、事業所を地域資源として活用し、協力体制に加えていかななくてはけません。
C 委員	地域に対する認識をきちんと棲み分けしないといけません。現在、吉海で新鮮朝市の事業として食育事業に取り組んでいます。子どもたちへ地域の味の伝承や地域で何ができるのかを体験して学んでもらおうと農作体験などをやっています。最終的には、郷土愛の醸成によって、将来地域を離れた後も帰ってきたいと思えることに繋がれば、という思いです。
I 委員	福祉教育が重要であることは認識しています。総合的な学習の時間で、福祉体験学習やキャリア教育を実施しており、講師を招いての講演会や高齢者の疑似体験を行っています。職場体験学習では、老人福祉施設への訪問などを行っていますが、希望する生徒は少ないです。中には介護の仕事の大切さを理解している生徒もいますが、やはり核家族化などでおじいちゃんやおばあちゃんと暮らさないのが、介護の現場を知らない子が増えているのも原因かと思います。教師側も介護の現状や素晴らしさを子どもたちに伝えていかななくてはいけないと思っています。
B 委員	中学生の福祉体験は、ずっと続けています。お年寄りとの交流では、学生もお年寄りも喜ばれています。

会 長	小さい頃から、地域の中で色々な世代の方と繋がるきっかけづくりが重要になってきますね。
J 委員	皆さんの地域を良くしていこうという意欲が伝わります。大きな共通の問題となるのが、少子高齢化だと言えます。問題点を改善することが一番にあります。座談会では地域の良いところについても多くの意見が出ているので、地域の良いところを高めていき、情報として共有していくことから始めてもよいと思います。福祉はもともと個人の満足度から発生しているところもあり、自分たちが住んでいる地域の良さを認識することが大事です。自分たちが住んでいる地域を自分たちが良いところだと思わないと、外から人は来てくれません。 また、住みよいまちにしていくには、企業で働く人の満足度を上げることが重要です。勤める企業に魅力があれば、個人の満足度につながります。人材不足を補うには、まず企業の魅力を上げること、それが地域の魅力にもつながってきます。 また、地域福祉の取り組みは、一朝一夕では結果の出るものではなく、継続して取り組むことが重要です。
会 長	本日は委員の方から様々な意見を頂きましたので、計画の中の施策にも繋げてほしいと思います。いかに横の繋がりを作っていくのかが、地域福祉計画の鍵になってくると思います。
事務局	議事(4)「今後の予定について」説明。
副会長	自助・共助・公助のうち、共助・互助に重点を置いて欲しいです。特に互助が薄れているように感じます。
会長	本日の議事をすべて終了
事務局	【第2回地域福祉計画審議会の閉会】